

## No.10「勉強の仕方を身に着けよう」

### <第1章>はじめに

Q 1 : 勉強の仕方は身に着けたほうがよいのですか。

A : (1) サッカーやバスケットボールをするときに、サッカーやバスケットボールの仕方を身に着けないで行ったらどうなるか。試合に出て勝つことなどできないし、友だちとサッカーやバスケットボールで遊ぶことすらあまりよくできません。



(2) 同じように、勉強をするときにも、勉強の仕方を身に着けずにするとうどうなるか。試験でよい点数を取ることもし、試験に合格することもまずできません。それどころか、学校の授業もさっぱりわからないことすらあります。

(3) では、どうしたらよいか。サッカーやバスケットをするときに、サッカーやバスケットの仕方を身に着けるために様々な取り組み(トレーニング)をするのと同じように、勉強をするときにも勉強の仕方を身に着けるための「勉強」(トレーニング)をすることが求められます。

Q 2 : では、お聞きします。勉強の仕方を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 2020年に創業41周年を迎える開倫塾では、これまでの経験を踏まえて効果の上がる勉強の仕方を開倫塾の「学習の3段階理論」として、塾長が中心となって取りまとめています。

(2) その内容をこれからお話いたしますので、どうかゆっくりと、一語一語行きつ戻りつし、よく「理解」しながらお読みください。何回か読み直して頂ければ、少しずつ納得して頂けると思います。

(3) よく御納得頂いたところから少しずつ実行してください。できそうなところから、少しずつでもOKですから、身に着ければ、必ず、御自身のものとして活用して頂けるようになると思います。

Q 3 : 「学習の3段階理論」は、どのように生まれたものですか。

A : (1) 塾長である私は、大学や大学の研究室に在籍し、学習塾や予備校の講師・家庭教師などをしていました。その期を含め、開倫塾を創業してからも、数多くの塾生や保護者、地域社会の皆様が学習面で一番困っているのは、「効果の上がる勉強の仕方」がわからないことだということに気づきました。どこに行っても、又、どんな人に会っても「勉強の仕方」がよくわからなくて困っているとお聞きしてい



たからです。

(2)御質問を頂く度毎(たびごと)に、質問をなされた方に応じた「効果の上がる勉強の仕方」をお話していました。勉強の仕方についてお困りの方、お悩みの方があまりにも多いので、そうであるならば、私自身が考えた「効果の上がる学習方法」を一つにまとめて、皆様に説明することが、皆様のお役に立つのではないかと考えました。

(3)そのようにして取りまとめたのが、これからお話する「学習の3段階理論」です。30年以上前から皆様に説明させて頂いているものですので、その基本は変わりません。ただ、毎年、毎年書き直していますので、お役に立つ度合いは少しずつ上がっているものとひそかに思っています。これからお話するのは、2020年3月17日(火)の最新版です。

Q4 : それでは、お聞きします。「学習の3段階理論」とはどのような内容ですか。

A : (1)勉強、つまり「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の「3段階」に分け、各々の「段階」にふさわしい「学習の方法」を具体的にお示ししたものです。

(2)「理解」とは、今、学んでいることが「よくわかること」「うんなるほどと、納得すること」「腑(ふ)に落ちること」です。

(3)「定着」とは、一度うんなるほどとよくわかったことを、自分のものとして「身に着けること」です。

(4)「応用」とは、

①テストでよい点数(学校の定期試験などでは100点満点、入試などでは合格点)が取れること

②社会で役に立つこと、活用できることです。

\*「学習の3段階理論」では、「身につける」は、漢字で書く場合には「身に着ける」と、「定着」の「着」に準じて「着」を用いて表記します。予め御了承ください。



## ＜第2章＞第1段階「理解」とは

Q1 : 第1段階の「理解」で大切なことは何ですか。

A : (1)よく考えると、「うんなるほど」と「よくわかる」のはどのような場合があるかという、いくつかあります。

(2)「予習」をしているとき、「先生やいろいろな人から教わっているとき」、「復習」をしているとき、「試験勉強」をしているときなど様々です。

(3)これらを「〇〇先生はじめ、人から教わるとき」と「自分一人で勉強するとき」の2つに分けて、各々の場面での「理解」の仕方をこれから御説明いたします。どうかゆっくりと、お読みくださいね。

Q 2 : 学校や開倫塾の授業など、教室などでの授業で先生方から教えて頂き、「理解」するときはどうしたらよいでしょうか。〈効果の上がる授業の受け方〉を教えてください。

A : わかりました。まとめてお話しますので、ゆっくりお読みください。

〈「効果の上がる授業の受け方」〉

- (1) ①授業の何分か前に教室に行き、できるだけ先生の近くの座席に着席する。  
②授業時間までは、それまでの学習内容について、「教科書」や「ノート」などを1ページ目から読み直して授業に「臨む」。  
③トイレはできるだけ授業前や自宅で済ませる。  
\*十分な手洗い、うがいもする。この時期は、「マスク」も必ず着用する。
- (2) ①欠席・遅刻・早退は、体調の悪いとき以外はなるべくしない。  
②授業中は、スマホ・ゲーム・ラインなどを絶対にしない。授業に関係のないことはしない。居眠りもしない。  
③おしゃべりや私語は他人の迷惑・授業の妨害になるので絶対にしない(「お口にチャック」です)。
- (3) ①授業中は手を机の上に置き、先生の口元(くちもと)と目を見て一語一語真剣に先生のお話をお聞きする。  
②先生の指示により、議論やグループワーク、ペアワークなどに積極的に参加する。  
\*お話をするときや発言をするときには、相手の目を見て、ゆっくり丁寧に語尾がよく聞こえるようにする。  
\*相手の意見を聞くときには、相手が最後まで話し終わるのを待つ。長すぎるようなら、「ちょっと失礼ですが、お話してもよいですか」といって、発言の機会を得る。  
③大切なことは、必ず「ノート」に「メモ」を取り続ける。  
\*「ノート」の活用の仕方は、あとでまとめてお話します。



Q 3 : それでは、「自分一人で勉強」し「理解」する場合についてお話してください。

A : (1)自分一人で勉強する場合の第1は「予習」ですので、最初に「予習の仕方」についてお話します。

\*「予習の仕方」については、「開倫塾 12 の躰プログラム」の No.1「次学年の予習をして、新学年に臨もう」で詳しく説明しました。せっかくなので、今回も、その内容を少しまとめてお話いたします。

- ①「予習」とは、「これから勉強する内容について、授業の前に予め勉強すること」を意味します。  
②ですから、「予習」には、学年が始まる前に行う「予習」、学期が始まる前に行う「予習」、次の週の授業の「予習」、明日の授業の「予習」、今日の授

業の「予習」など、いろいろな「予習」があります。

③要するに、これから行われる授業について、予め習う(学習)しておくことが「予習」です。

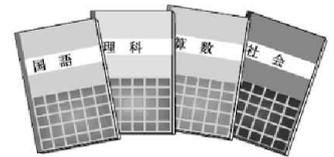
(2)なぜ「予習」をしたほうがよいのでしょうか。

①これは、バスや列車、自動車に乗って、又、歩いて目的地に行くのに、どのように行くのかを予め考えてから行くのと同じです。予めどのような方法で目的地に到着するのかを調べ、考え、頭の中に入れておくと、道に迷うことが少なく、時間通りにスムーズに到着できます。



②皆様は、テレビ東京で放送されていた「太川さんと蛭子さんの路線バスの旅」やテレビ朝日の「徳光さんの路線バスで寄り道の旅」という番組を御存知でしょうか。予め計画が立てられていない路線バスの旅は、目的地に時間通りに到着するのがなかなか難しいと考えます。

③学校や開倫塾の授業を受けるときに、その日の授業内容について学校の教科書や開倫塾のテキストを予め学び終えてから、つまり、「予習」してから出席すると、「授業の内容がよくわかる」こと、「当然」といえます。



(3)①授業に出席して、先生から新しい内容を初めて教えて頂くよりは、自分の力で「予習」をしてよく勉強し終えてから授業に出たほうが、はるかに先生の教えてくださる内容がよくわかります。よく「理解」できます。「うん、なるほど」「これはこういうことか」と「納得」し「腑(ふ)に落ち」ます。

②授業中によくわかり、よく「理解」したければ、できるだけ十分に時間をかけ、その日の授業内容を「予習」したほうがよいのは、このような理由のためです。

**Q 4 : 「予習をすると授業の妨げになるから予習はしないように」という考えがありますが、どうお考えですか。**

A : (1)①その考えには、それなりの理由があります。

②「予習」をして授業に臨む人の中には、「そんなこと知っている」といって授業中に自慢をしたり、

③「先生の教え方は、予習をした本と違っていておかしい。間違っている」などと、先生に文句をいったりする人がいるからです。

(2)①これは、自慢をしたり、文句をいったりする人が「授業のエチケット」を心得ていないためです。

②「予習」をきちんとすればするほど、授業の内容を授業前によく知っているのは「当たり前」です。

③それを授業中に、皆の前で自慢するのは「エチケット」に反し、場合によっ

ては「授業の妨げ(授業妨害)」になります。厳に慎みましょう。

(3)①又、「予習」のときの参考書などの説明と、授業中の先生の説明の仕方が少し異なるのはよくあることです。一つのものを説明するのにいろいろな説明の仕方があるのは、よくあることだからです。



②例えば、同じ家の形を説明するのに、真正面から見た様子、真上から見た様子、左側面から見た様子、右側面から見た様子、真裏から見た様子、ななめ右から見た様子、ななめ左から見た様子など、すべて異なります。ものごとは、見る方向、見方が異なると、見え方が異なります。

③同様に、同じことを説明するのに、少しでも観点(見方)が違うと、説明の仕方が異なります。「予習」のときに学んだ説明と、授業中の先生の説明が違って、文句をいうことはおかしいといえます。

④但(ただ)し、どうしても納得がいかなければ、授業中に手を挙(あ)げて「こういう考えもあるのではないですか」などと質問することをおすすめします。又は、授業後に、先生のお許しを得て質問するとよいと思います。

⑤自分の「予習」した説明と、先生の説明が違うからといって、「先生の授業は間違いだ」と断定し、授業や先生を批判することは止めましょう。

Q5 : どのように予習をすればよいのですか。

A : (1)①「教科書や教材、問題集、指定された資料のすべてを、授業開始までに一通り読み、書いてある内容をすべて、うんなるほどとよくわかる、納得するまでにすること」、つまり「理解」することが「予習」の基本です。



②そのために一番よい方法は、「予習」すべき文章や内容、情報を、一語一語、一つ一つていねいに読むことです。

③読んでいてよくわからない「語句」があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、教科別の辞典、インターネットなどを開いて調べることです。

(2)①調べたことは、ノートやカードに書き写して、どのような内容かを十分に納得、つまり、うんなるほどと「理解」すること。

②うんなるほどとよく納得、「理解」できた「語句」は、よく読めるようにすることと同時に、よく書けるようにすること。そして、その場で覚えてしまうことです。

③書いてあることがよくわからなかったら、スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習(音読練習)をすること。「音読練習」が済んだら、よく書けなそうな語句は、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることです。

\*「予習」として「音読練習」と「書き取り練習」をし、スラスラとよく読めるようにすること、何も見ないでいえるまでにする「暗誦(あんしょう)」、何も見ないで正確に書けるまでにする「暗記(あんき)」を目指しましょう。

(3)①「計算」や「問題」は、必ずノートに解きましょう。

②問題文もノートに書き写すこと。

③計算や問題を解く過程(途中の式や計算)もすべてノートに書き写しましょう。

\*「予習」をするときのノートは左側のみを用い、右側はすべて授業用や復習用に空けておきましょう。



Q 6 : 計算や問題が解けなかったらどうすればよいのですか。

A : (1)解答や途中の計算などを書くスペースを空けておきましょう。

(2)①いくら考えてもわからなければ、参考書や各教科の辞典(例えば、小学算数辞典や中学数学辞典、高校数学辞典など)で似たような問題(これを「類似問題」といいます)を探し、解いてみましょう。

②類似問題を自分で解いてみて、解き方がわからなければどうするか。

③解き方や途中の計算を、「先生の授業を聞くような謙虚(けんきょ)さ、素直な心」で、なぜそのような解き方をし、解答になるのかをよく考えながら、ノートに、ていねいに書き写すことをおすすめします。

(3)①このように「類似問題」を勉強したあとに、授業の「予習」をしていて解くことのできなかつた計算や問題にもう一度挑戦。ノートに解き方・途中の計算も含め書き残しておきましょう。

②それでも解き方や解答がよくわからなければ、「よくわからなかったよ」という、自分自身で考えた「印(しるし)」を、ノートや教科書の「問題番号」の上に付けておき、授業中の先生の説明をよく聞きましょう。

③このように、「予習をしてよくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨む」ことが大切です。

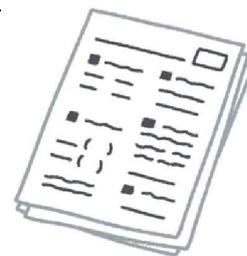
「予習とは、よくわからなかったところをはっきりさせて、授業に臨むために行うもの」

\*これを「予習の目的」にしてくださいね。

Q 7 : なるほど。予習をしていてよくわかる、つまり、「理解」できることもたくさんあるということですね。

A : (1)その通りです。ちょっと先走(さきばし)ってしまい、失礼しました。

(2)「予習」をして、うんなるほどとよくわかるところ、つまり「理解」できると



ころは、計算や問題の解き方も含めてなぜそうなるのか、そう考えるのかも「理解」してしまうことです。

(3)又、「予習」をして身に着けられる、「定着」できるものは、予習の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」などを繰り返して、すべて身に着けてしまう、「定着」させてしまうことです。

(4)おわかりでしょうか。ここまで予習をして、授業に臨むことです。どこまで細かく、又、深く予習しても、予習しすぎることはありません。知りたいと思ったら、どんどん先へ、先へと、自分の力で勉強を進めることです。小学生が中学校や高校の勉強をする、中学生が高校の勉強をする、高校生が大学の勉強をするのは、「予習」を本格的にしていけば、誰でもすることです。予習に遠慮は一切ありません。知りたいこと、学びたいことがあればどんどん勉強してください。



**Q 8** : それでは、自分で行う勉強として、「復習」による「理解」の仕方を教えてください。

**A** : (1)復習とは、「授業で習った内容を、授業後にもう一度おさらいをすること、つまり、もう一度学び直すこと」です。

(2)では、何を用いて行ったらよいか。「復習」で用いるものは、3種類あります。

- ①授業で用いた教科書、テキスト
- ②授業中に用いたプリント、資料教材、問題集
- ③授業中に取ったノートやメモ

(3)これら3つのものを用いてどのように「復習」し、うんなるほどと「理解」したらよいか。

- ①教科書やテキスト、プリントや資料教材は、授業で学んだ範囲を、授業を思い出して一語一語かみしめながら、どのような内容なのかがうんなるほどとよくわかるまでよく読むこと。できれば、声を出して読むこと。
- ②読んでいて意味や読み方がわからない語句があったら、「気持ち悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別の参考書、インターネットなどで調べること。調べたことは「意味調べノート」や「単語カード」などに書き写すこと。
- ③書き写したら、その「語句」とその語句の「意味・内容」がスラスラとよく読めるようになるまで声を出して読む練習をすること。スラスラとよく読めるようになったら、正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすること。1日1回は「意味調べノート」や「単語カード」などを1ページ目、1枚目から声を出して読み返し、すべて正確に覚えて、正確な意味・内容を知っている語句の数を確実に増やすこと。
- ④このようにして、どのような意味・内容かがわかった教科書やテキスト、プリントや資料教材などは、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」、



正確に書けるようになるまで「書き取り練習」を繰り返すことです。

(4)①授業中に一度解いた「計算や問題」はどうしたらよいか。まずは、解答を見ずに、必ず、もう一度解き直すことです。

②解答が間違えていたら、なぜ間違えたかをよく考えて、もう一度解き直すこと。

③なぜそのような解答になるかわからなかったら、よくわかるまで、解答集や教科書、テキスト、参考書などを用いて調べること。

④それでもわからなければ、わかるまで友だちや先生に質問することです。

(5)復習のときには、「ノート整理」をしましょう。

①「ノート整理」とは、授業中に取った「ノート」の中で

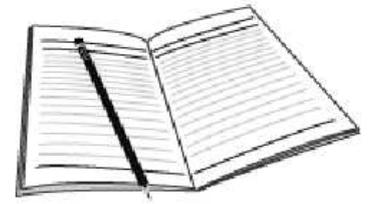
㊦「大切なところに線を引く」

㊧「大切なところは線で囲む」、見やすくしてあとで勉強しやすくすることです。

②「見出し」をつけたり、「必要なことを書き加える」ことも、大いに行ってください。

③「ノート整理」の目的は、「授業中に取ったノート」を、あとで勉強しやすいように、見やすいように工夫することです。

\*「ノート」は英語で **notebook** といいます。が、「授業ノート」を工夫して、自分で作った本「**My Notebook**」にしてください。



(6)このように授業内容を「復習」することにより、「理解」が更(さら)に深まります。

〈ここまでのまとめ：「復習」による「理解」の仕方〉

(1)授業による「理解」

(2)自学自習(自分一人で行う勉強)による「理解」

①「予習」

②「復習」



(7)もちろん

①「理解」の次に行う「定着のための 3 大練習」をしているうちに、「理解」が深まることもあります。

②さらには、「理解」→「定着」したあと、「応用」としてそれらを用いて問題を解いたり、社会で用いたりしている間に、「理解」がさらに深まることもあります。

③小学校・中学校・高校で学んだ内容を、大学や大学院でもっと専門的に学び、さらには、社会の専門領域で用いるなど社会に出てからも勉強を深めると、「ものごとの本質を理解」することに近づきます。(これを「本質的理解」といいます)

\*「同じことでも、学べば学ぶほど奥深い」ことは、世の中には山ほどあります。

小学校・中学校・高校の教科書に出ているような内容を、もっともっと深く学ぶには  
(1)参考書があります。参考書には3つの種類があります。

- ①「まとめ」の参考書
- ②教科書の内容を「やさしく説明」してある参考書
- ③教科書の内容を「かなり細かく、詳細に説明」してある参考書

\*「教科別の辞典」もあります。

(2)「新書本」や「文庫本」で教科書の各項目がかなり深く、しかし、やさしく説明してある本もたくさんあります。

- ①代表例は「講談社ブルー・ボックス」という新書版シリーズです。
- ②「岩波ジュニア新書」もかなりそろっています。
- ③「講談社学術文庫」や「ちくま学芸文庫」も有用です。

- ④少し大きめの書店、本屋さんや、学校図書館や公共図書館で、勉強に役立つ、また、自分のお気に入りの「文庫本シリーズ」や「新書本シリーズ」を探してみましょう。  
とてもためになりますよ！



### ＜第3章＞第2段階「定着」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第2段階」である「定着」とは何ですか。

A : (1)「定着」とは、うんなるほどとよく「理解」できた内容を、「正確に身に着けること」です。

(2)ですから、「定着」の前提は「理解」です。「読書百遍意自(おの)ずから通ず」「習うより慣れろ」という考えもありますが、できれば、まずは、よく「理解」する努力・取り組みをしてから、次に、正確に身に着ける「定着」のための努力・取り組みをすることをおすすめします。

(3)なぜなら、よく「理解」しないで、覚えるだけ覚えるというよりは、十分に「理解」した上で、正確に用いることができるまで身に着ける・「定着」させるほうがよいと考えるからです。

Q 2 : 「定着」のためにはどのような努力・取り組みをしたらよいのですか。

A : 3つあります。

(1)①まず第1は、「声を出して読む」ことです。

②「声を出して読むこと」を「音読」といいます。

③「学習の3段階理論」で最もおすすめしているのが、「音読練習」による「定着」です。



(2)では、どの程度まで声を出して読む「音読練習」をしたらよいか。

①第1目標は、「スラスラと、よく読めるようになるまで音読練習をすること」です。

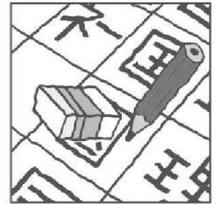
②スラスラと、口をついて出てくるようになるまで、教科書やすべての教材や授業のノートなどを読む練習、「音読練習」を繰り返すことです。

(3)そして、大切なところは、「何も見ないでスラスラといえるまでにすること」です。これを「暗誦」(あんしょう)といいます。大切なところは、「暗誦」できるまで「音読練習」をする。これが「音読練習」の第1目標です。

Q3 : 「定着」のためにしたほうがよいことの2番目は何ですか。

A : (1)①「書き取り練習」です。

②「書き取り練習」とは、「書き順も含めて正確に書けるようになるまで、繰り返し書き取りの練習をすること」です。



(2)①「国語」の教科書で書き取り練習をすべきは、平仮名(ひらがな)と、新しく習うように指示された「漢字」だけではありません。

②「国語」だけでなく、数学も含め、「すべての教科」についても、今までに習ったことはあるが、正確に書くのが難しそうな漢字や、すべての教科の教科書やテキスト、教材、資料集、問題集、授業のノートなどに出てきた語句で、よく覚えていないものはすべて「書き取り練習」の対象です。

③「すべての教科」について、人名や地名はじめ、ものの名前など「固有名詞」もすべて正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をして、「定着」させてください。

(3)①「英語の綴(つづ)り、スペリング」は、正確に書けるまでにしてください。

②英語は、「ブロック体」だけでなく、美しい「筆記体」でも書けるようになるまで書き取り練習をしてください。

③英語の「筆記体」を書く練習をしておく、「筆記体」の文字を読むときに便利です。(「筆記体」を書く練習をすることで、「筆記体」に慣れ親しみ、筆記体で書かれた文字を読むときに役に立ちます。)又、「ブロック体」しか書けないと、自分の名前などサインするときに、サインを簡単に盗まれ、犯罪の被害者になることもあります。せめて、自分の名前だけは美しい「筆記体」で書けるようになるまで、「書き取り練習」をしましょう。(自分の名前が「筆記体」で書けない人は、学校や開倫塾の先生に頼んで、お手本を書いてもらいましょう。ゆっくり何十回か練習すれば、少しずつ書けるようになりますよ。)

(4)①「書き取り練習」の目標は、「一度覚えた語句や文章を何も見ないで書くことができること」です。これを「暗記」といいます。

②「音読練習」をして、何も見ないでスラスラといえるようになるまで「暗誦(あんしょう)」したら、次は「暗誦」した内容を、何も見ないで正確に書け

るまで「暗記」することを目指しましょう。

- ③「書き取り練習」をするときには、「書き順」も正確に覚えましょう。又、誰が読んでも読みやすい文字、教科書で用いられている書体、「楷書(かいしょ)」で書くことを心掛けましょう。



\*文字にうまい、へたはあるようですが、まずは、誰が読んでもわかる文字、「楷書」でていねいに書くことを目指しましょう。「ていねいに書く」ことを心掛けていれば、テストで減点されることも少なくなります。

- (5)第2段階の「定着」のために「音読練習」と「書き取り練習」を繰り返すことで、「理解」した内容を正確に身に着けることができます。

Q4 : 「定着」のためにしなければならないことの3番目は何ですか。

A : (1)「計算・問題練習」です。

(2)「計算・問題練習」とは、「一度なぜそのような解き方をし、解答になるかを十分に『理解』した計算や問題について、その計算や問題を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正解を導き出せるまで、繰り返し練習すること」です。

(3)これが「計算・問題練習」です。

Q5 : 例えば、どういうことですか。

A : (1)①例えば、 $2 \times 3$  という計算問題を見たら、条件反射で6という答えが出るまで「九九の練習」をすることです。



②又、例えば、 $(a + 9)(a - 9)$  という問題を見たら、条件反射で  $a^2 - 81$  という答えが出るまでにすることです。この前提は、 $2 \times 3$  や  $(a + 9)(a - 9)$  の意味がよくわかっていることです。

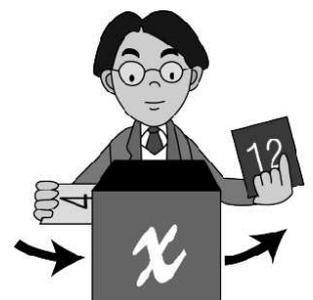
(2)①2に3をかけるとなぜ6になるかがわかっている、「理解」していることです。

②又、 $(a + 9)$  と  $(a - 9)$  をかけるとなぜ  $a^2 - 81$  になるかがよくわかっている、「理解」していることです。

(3)①  $2 \times 3$  や  $(a + 9)(a - 9)$  の意味がわからないのに、6という答えや  $a^2 - 81$  という答えだけ覚えても何の意味もありません。

②このように、まずは、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」すること。

③その上で、 $2 \times 3 = 6$ 、 $(a + 9)(a - 9) = a^2 - 81$  というように、「計算・問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと正解が出るまでにすることが大切です。



Q 6 : 何を使って、この「計算・問題練習」をすればよいのですか。

A : (1) 今までに自分で解いたすべての計算や問題を用いて、「計算・問題練習」に挑戦しましょう。

(2) この練習をするのに一番よいのは、教科書や問題集、定期試験や模擬試験などで「一度解いて間違えた計算や問題」です。

(3) この練習を行うことで、一気に不得意な計算や問題を減らすことができます。ただし、くれぐれも、なぜそのような答えになるのかを十分に「理解」してくださいね。

\* 「テストやその解答は、すべてファイルに保存しておくこと」が大切です。保存していなければ、もう一度やり直すことはできません。



Q 7 : なるほど。「学習の3段階理論」の「第2段階」の「定着」には、「音読練習」、「書き取り練習」、「計算・問題練習」という3つの「練習」があるのですね。

A : (1) その通りです。「学習の3段階理論」では、この3つの練習を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2) ちなみに、慶應義塾塾長の小泉信三先生は、「練習は不可能を可能にする」という「ことば」(名言)を残されました。

(3) 「定着のための3大練習は、不可能を可能にする」と考えます。

① 一度、うんなるほどと十分に「理解」したものは、「予習」のときでも、「復習」のときでも、いつでも OK ですから、「定着のための3大練習」をこまめに行い、すべて正確に身に付けてください。

② あやふやであった「知識」が、すべて正確に身に着きます。

③ 一度学んだが、うろ覚えであったことも、あとになって「定着のための3大練習」をしっかりとすることで、知識がよみがえり、知識を正確に身に付け、自分のものとすることができます。



定着のための3大練習は不可能を可能にする

(1) 学校の単元テスト、定期試験、実力試験、業者模試、入学試験、資格試験、入社試験、国家試験などすべての「試験勉強対策」の第一歩は、「教科書」の知識を万遍(まんべん)なく、「スミからスミまで」正確に「理解」し、正確に「定着」させることです。

(2) 一度「理解」したことを「定着のための3大練習」によってすべて身に着けることは、あらゆる試験で「不可能を可能にする」という成果を発揮します。

(3) 是非、チャレンジを。学校の定期試験で100点が取れ、模試の偏差値も急上昇します。

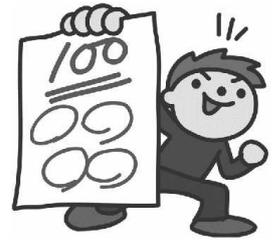
## ＜第4章＞第3段階「応用」とは

Q 1 : 「学習の3段階理論」の「第3段階」である「応用」とは何ですか。

- A : (1) 一度、うんなるほどと「理解」した内容を、「定着のための3大練習(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)」で正確に身に付け、「定着」させ、それらを用いて「試験でよい点数」を取り、又、「社会に出て役立てる」ことです。
- (2) まとめていうと、「応用」とは「理解、定着したことを用いて、試験でよい点数を取り、社会で役立てる」ことです。
- (3) 「試験でよい点数を取る」ことと、「社会で役立てる」こと、この2つが「学習の3段階理論」の「応用」の内容です。

Q 2 : 「試験でよい点数を取る」の「よい点数」とは何ですか。どんな点数を取れば「よい点数」なのですか。

- A : (1) 「よい点数」とは、
- ① 学校の単元テスト・定期試験では、「100点満点」を取ることです。
  - ② 業者模試では、「トップ校・難関校を含む第1志望校に合格できるだけの十分な偏差値」を取ることです。
  - ③ 入学試験・検定試験・国家試験・就職試験では、「合格点」を取ることです。



Q 3 : 学校の定期試験で「100点満点」という「よい点数」を取るには、どうしたらよいですか。

- A : (1) 学校の定期試験は、毎年実施の時期が決まっていますので、2～3か月前から定期試験対策の勉強をスタートすることです。
- (2) 例えば、この原稿を書いている今日は、3月17日(火)です。3学期制の学校なら1学期の中間試験は5月中旬から下旬、2学期制の学校なら前期の中間試験は6月中とほぼ毎年決まっていますので、今日から1学期に行われる第1回目と第2回目の定期試験対策をスタートすれば、よい点数、100点満点が取れます。
- (3) では、どのように行えばよいか。新学年の学校の教科書や開倫塾のテキストを手にした瞬間に、1学期に行われる定期試験の範囲まですべて「予習」をし終えることです。2学期制の学校は、前期の範囲すべてをできるだけ早く勉強し終えることです。
- (4) そして、学校の授業の直前にも、もう一度「予習」をし、授業が終了したら「復習」をし、第1段階の「理解」を完璧にした上で、第2段階の「定着のための3大練習」を徹底的に行う。「予習」の段階で、「理解」だけでなく、「定着のための3大練習」ができるものはすべて行って授業に臨み、授業後の「復習」でもさらに行って完璧を期す。これを全教科行えば、各学期の定期試験で、全教科100点満点を取ることができます。
- (5) 学校の定期試験は「試験範囲」が明確に示されますので、早め早めの対策として「理解」プラス「定着のための3大練習」を行えば、誰でも確実に100点満点が取れます。



Q 4 : 業者模試で、第 1 志望校に合格できるだけの偏差値を確保するには、どうしたらよいですか。

- A : (1) ①業者模試も各回ごとに「試験範囲」が明確に示してありますので、できれば模試の 1 ~ 2 か月前までに、その「試験範囲」の内容を自分で主に使っているテキストに沿って「理解」し、「定着のための3大練習」を済ませておくことです。
- ②その上で、業者模試の昨年同時期の問題(これを「過去問」と呼びます)の何年分かを、実施 1 か月前に、時間通りに解いてみることをおすすめします。
- ③業者模試の過去問を解き、自分の苦手分野・弱点分野を発見したら、本番の業者模試当日までの 1 か月間、その分野を集中的に勉強することをおすすめします。



(2) 実は、業者模試は試験終了後が大切です。

- ①試験終了後に配付された解答・解説を見て、得点を計算。できた、できなかったで「一喜一憂」する時間はできるだけ避けるか、できるだけ短時間にしましょう。
- ②業者模試で大切なのは、解答・解説を開倫塾や学校の先生の授業をお聞きするときのような真剣な態度で、一語一語かみしめるように精読、「理解」に努めることです。
- ③よく「理解」できたら、開倫塾や学校で授業を受けるように、全教科とも今度はじっくり時間をかけて、問題文をテキストにして、もう一度勉強し直してみてください。つまり、意味のよくわからない語句があったら、「気持ちが悪い」と考え、辞書や用語集、学年別・分野別参考書、インターネットなどで調べる。調べたことは、ノートや単語カードに書き写し、すべて覚えることです。
- ④各教科の問題文や設問、選択肢を用いて、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」ですべて身に着ける、「定着させる」ことをおすすめします。
- ⑤一度解いた模試を、自分の教科書・テキストと同じように最大活用することが、偏差値アップの最短の道です。
- ⑥模試の解答・解説は、問題文同様、作問者の先生方が、心血を注いで書き上げたものです。開倫塾や学校の先生の授業だと思って、一語一語、真剣に「理解」すること。「理解」したことは、「定着のための 3 大練習」を行ってすべてスミからスミまで身に着ける、「定着」させることです。
- ⑦間違えた問題を書き抜いた「間違いノート」と、大切なことをまとめた「まとめノート」の作成、繰り返し読み直すこともとても有効です。

Q 5 : 入学試験で「よい点数」、つまり「合格点」を取るためには、どうしたらよいですか。

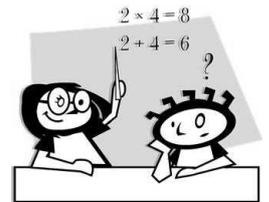
- A : (1) 入学試験で過去に出題された問題(過去問)5~10年分を徹底的に活用した勉強をすることです。
- (2) 遅くとも、入学試験の 2 ~ 3 か月前になったら、「過去問」を用いた勉強をスタートしましょう。
- (3) 「過去問」の勉強の仕方(手順)は、業者模試と全く同じです。



①「過去問」をノートに解く。

\*どうしても時間内に解けなければ、時間を延長してでも解く。

\*解き方がよくわからない問題や、正解がわからない問題は、辞書や用語集、参考書、教科別辞典、インターネットなどで「わかるまで徹底的」に調べる。まずは、自分の力ですべて解く努力をする。



②解答・解説を読んで採点をする。

\*大切なポイントは「ノート」に書き写す。間違えた問題の正解や解き方もノートに書き写す。（「間違いノート」を作成）

③問題文・設問・選択肢・解答・解説は、学校の教科書を学ぶのと同じように一語一語、ていねいに「理解」に努める。「理解」できたものは「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を行い、「定着」を図ることです。

(4)①間違えた問題を書き抜く「間違いノート」を作成する。

②大切なことをまとめる「まとめノート」の作成も極めて有効です。

③どちらも、「ポイント(要点・大切なこと)」のみ「要領よくまとめ」ましょう。

\*大切なのは、その「まとめノート」を繰り返し読み直し、すべて自分のものとして身に着けることです。

### <第5章>第3段階 学力とは何か

Q 1 : 「勉強の成果」を決定する上で、大切なこと(要因)は何ですか。

効果の上がる勉強をする上で大切なことは何ですか。



<自覚をもって学ぶこと> \_\_\_\_\_

A : (1)「本人の自覚」です。

(2)「本人の自覚」とは、勉強する本人が、自分は一体何者なのか、今、自分はどういう立場にいるのか、自分の得意なこと・不得意なことは何か、自分自身でよくわかっていることとは何かについて、よく「理解」していることです。

(3)①この「本人の自覚」がないとどうなるか。

②「勉強する本人」が、なぜ今ここで勉強しなければならないのか、なぜ自分は定期試験や模擬試験、入学試験などを受けなければならない立場にいるのかをわかっていないと、なかなか勉強がはかどらず、成果はあまり期待できません。

③みんなが勉強するから何となく勉強する、みんなが進学するから進学する、保護者や先生に言われたから仕方なく机に向かうというのでは、学校の定期試験や模擬試験、入学試験、3大検定などの試験勉強に力が入らず、よい結果はあまり期待できません。

Q 2 : では、どうしたら自覚をもって学ぶことができるのでしょうか。

A : (1)①ちょっと難しいお話になりますが、今通っている学校というのはどのようなところかを、じっくり考えてみることをおすすめします。小学生は小学生として、中学生は中学生として、高校生は高校生として、今通っている小学校、中学校、高校とはどのようなところかを自分なりに考えてみましょう。例えば、中学校は何をしたらいいのか、中学校で学ぶことはどの

ようなことなのかななどを、学校の案内(パンフレット)や入学式、オリエンテーション、始業式、終業式、朝礼、HR などでの先生方のお話から考えてみましょう。

②今学んでいる各教科の大切さも、少しずつでよいですから考えてみましょう。

③教科の勉強だけでなく、教科外の教育活動、HR、学級会、掃除当番や給食当番をはじめとするいろいろな当番、児童会、生徒会、部活動、体育祭、文化祭、体験教室、鑑賞教室、修学旅行、卒業式、入学試験、始業式、終業式、全体朝礼などの大切さも自分なりに考えてみましょう。



(2)①まずは、今行っていることの「大切さ」(これを難しい言葉で「価値」といいます)を自分で考え、少しずつでも「理解」する。

②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考えてみる。そして、このことは自分にとってこのような意味があるのだと、自分なりに「意味付け」をする。

③最後に、自分としてはどうしようと考えてみる。やりたいことのすべてはできないので、これはやろう・これはやらないでおこうと自分なりに「ルール」を決めて、自分で決めた「ルール」なのでできるだけ守るように努める。自分で考えた「ルール」に従ってやりたいことを少しずつ抑え、自分自身を「律しながら」行動する、「自律的に行動」することです。

Q 3 : それでは、お聞きします。「学力」とは何だと考えますか。

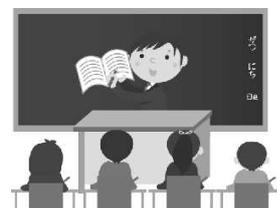
A : (1)①「自分からすすんで学び続ける力」

②「主体的に学び続ける力」

③「自覚をもって学び続ける力」

(2)勉強をする上で最も大切なことは、「学び続ける」ことです。

(3)「学ぶ」とは、人生を何度も生きるために「学び続けること」です(元東京大学総長の佐々木毅先生のことば)。人は、学び続けることで「人生を何度も生きること」ができます。



Q 4 : なるほど。それではお聞きします。自覚をもって学ぶとはどのようなことですか。

A : (1)①「受験生」の塾生の皆様には、1日も早く「自分は受験生である」という「自覚」をおもち頂きたいと強く要望いたします。

\*塾生の皆様の中で、2021年の冬に公立中高一貫校、私立中学校、高校、高等専門学校、大学、短期大学、専門学校、専修学校への入学を希望なさる方を、開倫塾では、「受験生」と呼びます。

②「自分は受験生である」という「自覚」があると、できるだけ「長い時間勉強する」ようになります。

③「受験勉強の仕方を工夫」するようになります。

(2)①「入学試験の実施日」は決まっており、入試前日までに「合格できるだけの実力」を身に着けなければなりません。「毎日、できるだけ長く勉強すること」が必要です。

- ②又、短い時間に効果的に勉強できるよう、「受験勉強の仕方を工夫」することも求められます。
- (3)①これに加えて、「読解力」を身に着けないと、「試験時間内に大量の問題文や設問、選択肢を正確に読み込み、正解を導き、書き記(しる)すこと」ができません。
- ②そこで、「辞書」を用いて身に着けていることばの数を増やし、「新聞」を読んで複雑な文章を正確に、論理的・分析的に考えながら読む能力を身に着け、「読書」に励み、思慮深さ、深く考える力を身に着けることが求められるのです。
- ③「辞書と新聞、自分の好きな本を1冊、いつもカバンの中に入れて持ち歩き、どんどん親んでください。」



Q5：どうしたら「受験生としての自覚」をもち、これから1年間、受験勉強をすることができますか。

A：(1)なぜ、公立中高一貫校や私立中学校、高校、高等専門学校、大学などに進学したいのか、「進学の目的」をはっきりさせることです。

- ①そのための一番のおすすめは、「自分で一番行きたい学校(これを開倫塾では「第1志望校」といいます)を1日も早く訪れ、どのような学校なのか直接見学」することです。
- ②外から建物だけを見てもOKです。又、放課後などなら、「来春、入学を希望するので、ちょっとだけ見学させて頂けませんか」と受付で理由を述べれば、中に入れてくれる学校も多いですよ。
- ③オープンキャンパスまで待たずに、1日も早く第1志望校を実際に訪問することをおすすめします。
- (2)①大学は誰でも自由に入れるところが多いので、キャンパスを散歩したり、大学のカフェやレストランで、お茶やランチをするのもおすすめです。
- ②理由を述べ、手続きをすれば、大学図書館を見学させてくれる大学もかなりあります。
- ③大学の中にある、コンビニや書店・文具店などを訪れると、大学生活の一端に触れることもできます。御家族や友だちと一緒に行くのもよし、一人で行くのもよし、第1志望校への訪問を1日も早く実現してくださいね。
- (3)「第1志望校に入学して何をするか、何を学ぶかを自分の力で考える」ことも、「受験生としての自覚」をもつのに役立ちます。



- ①恥ずかしながら、私を例にお話します。私は中学2年生のころから、将来は弁護士か新聞記者になりたいとひそかに思うようになりました。そこで、例えば、弁護士になるにはどうしたらよいかを調べたところ、司法試験に合格し、司法研修で2年間の研修を受けて修了し、弁護士として登録をしなければならぬことを知りました。では、どのようにして司法試験に合格することができるかといえば、司法試験に合格者を毎年出している大学の法学部法律学科で法律を学ぶことが必要だということがわかりました。そこで、当時、私が住んでいた栃木県足利市の近くで司法試験に合格する

大学に進学できる高校はどこかと探したところ、地元の、栃木県立足利高校普通科がよいのではないかということになり、足利高校を受験することにしました。

- ②これは私の例で、あまり参考にならないかもしれませんが、このように将来の職業のために高校を選択することも考えられます。

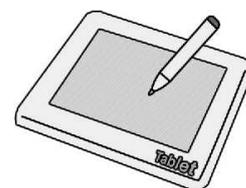


\*結果を御報告しますと、希望した足利高校に無事合格し、高校卒業後は、司法試験合格者を出している慶應義塾大学法学部法律学科に進学することができました。ここまではよかったのですが、実力不足のために司法試験には合格を果たすことができず、開倫塾を創業するに至りました。

\*ただし、よかったのは、高校の同じクラスから司法試験に合格し、裁判官になった友人が出て、又、私の実の弟も同じ高校、同じ大学で学んで司法試験に合格し、弁護士になれたことです。身近な友人や弟が夢を実現できて本当によかったと思います。

- ③第1志望校に入学して、「こんなことをやりたい、学びたい」、「その学校を卒業してから、～がしたい」、「社会に出て…になりたい」という明確な目標をもつことをおすすめします。たとえ最終的にその夢が叶(かな)わなくても、それまでの勉強や努力はしっかり身に着いていますので、どこかで必ず役に立ちます。私の場合も、法律を勉強したので、社会に出てからもかなり役に立っています。

Q6 : 「学習の3段階理論」などを参考に、自分なりの「効果の上がる学習方法」を身に着けると、どのような人生が歩めますか。



A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。

①「人生の選択肢」が一気に「多様」になります。

②一度にたくさんはできませんが、自分の潜在能力を発揮し、得意分野を生かしながら生きることができます。

(2) ①試験に合格できなければ、できないこと・就けない仕事は山ほどあります。又、勉強をすればするほど、できることも、たくさんあります。

②例えば、ウェアラブルやスマホ、タブレット、PCも使い方がわからなければ何の役にも立ちませんが、4つの器種の特徴や機能をよく学んで使い方を身に着けることにより、「同期化」したり、様々なことを成し遂げることが可能になります。

③このように、「人生の選択肢が多様」になり、「多様な人生を歩む」ことができます。

(3) ①さらには、「正常に機能する社会の形成」「持続可能な社会の形成」に貢献することができます。

②学べば学ぶほど、SDGs、つまり、人類が2030年までに解決しなければならない17の領域の課題解決に、何らかの形で貢献することができます。

③このように「学習の方法」を身に着け、「自覚」をもって「主体的に学ぶ」ことは、自分の未来だけでなく、地域社会や人類の課題解決に役立ちます。